

氏名： 藤原 葉子 (FUJIWARA Yoko)
所属： 人間文化創成科学研究科自然・応用科学系
職名： 准教授
学位： 学術博士 (1993 お茶の水女子大学)
専門分野： 栄養科学、脂質生化学
E-mail： fujiwara.yoko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

栄養化学／脂質代謝／分子栄養学／食品成分／生活習慣病
nutrition biochemistry / lipid metabolism / molecular nutrition / food factor / life style related disease

◆主要業績

総数 (18) 件／特許 (1) 件

- The metabolism and distribution of docosapentaenoic acid (n-6) in livers and testis of growing rats. Phyllis S Tam, Rumi Sawada, Cui Yan, Akiyo Matsumoto and Yoko Fujiwara. Biosci. Biotechnol. Biochem., (2008) 72,2548-54
- A pilot study of evaluation of the antioxidative activity of resveratrol and its analogue in a 6-month feeding test in young adult mice. Atsuko Matsuoka, Yukio Kodama, Kiyoshi Fukuhara, Sachiko Honda, Mikiko, Hayashi, Kimie Sai, Miki Hasebe and Yoko Fujiw
- FGF-2 increases osteogenic and chondrogenic differentiation potentials of human mesenchymal stem cells by inactivation of TGF- β ; signaling. Ito T, Sawada R, Fujiwara Y and Tsuchiya T. Cytotechnology (2008) 56, 1-7.
- ニュートリゲノミクスより観た脂肪酸が生体に及ぼす影響の網羅的解析 - 飽和脂肪酸の再評価 - 藤原葉子 オレオサイエンス (2008) 8 (10) 427-446
- 出願番号：PCT/JP2008/000741 発明者：藤原葉子、長谷部未来、福原潔、松岡厚子
発明の名称：スチルベン誘導体を有効成分とする脂肪細胞分化抑制剤
出願人：国立大学法人お茶の水女子大学 出願日：平成 20 年 3 月 26 日

◆研究内容 / Research Pursuits

1. メタボリックシンドロームの原因となる肥満と食物との関係を研究している。脂肪細胞を用いて、前駆脂肪細胞から脂肪細胞への分化・成熟過程に、食品成分としてがどのような影響を与えるのかを検討している。
2. 日本人が摂取する脂質は、その量だけでなく質、すなわち多価不飽和脂肪酸の割合やその n-6/n-3 比が重要である。n-6 系と n-3 系の脂肪酸の個々の生理作用やその代謝について動物や細胞レベルでの検討を行っており、新たな生理作用の探索に DNA マイクロアレイやパスウェイ解析などの手法を加え、様々な観点から研究を進めている。
3. レスベラトロールは近年、肥満抑制、寿命延長効果を持つことが分子レベルで明らかにされ、注目を集めているポリフェノールである。我々は、レスベラトロールのいくつかの誘導体を用いて、脂肪分化抑制作用やマウスでの抗肥満作用を明らかにして、国際特許化に結びつけた。

◆メッセージ

私たちは食品の身体に及ぼす影響を生化学的、分子生物学的手法で研究しています。食品には栄養学的な機能だけでなく、食物としての「ひとが食べる」という視点が重要です。